

KF シールテクト
YKB-J 工法
施工要領書

KF ケミカル株式会社

目 次

1	YKB-J 工法 仕様	1
2	YKB-J 工法 仕様断面図	1
3	施工フロー図	2
4	施工条件	2
5	要求下地	2
6	施工手順	
6-1	撤去、下地処理、清掃、養生	3
6-2	バックアップ工、テープ工	4
6-3	下塗り工	5
6-4	止水工	6

1 YKB-J 工法 仕様

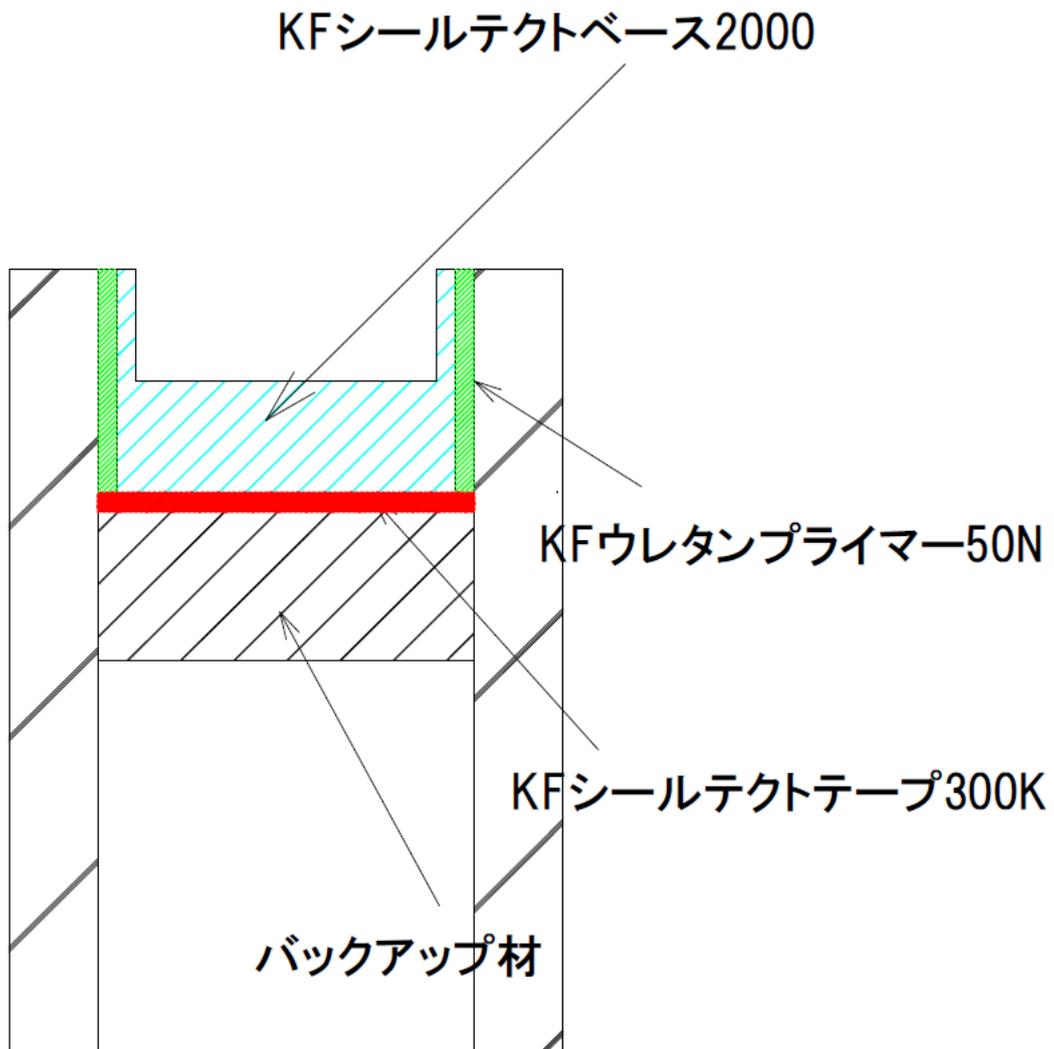
■ YKB-J 工法

工程	種 別	使 用 材 料	使用量/㎡
1	軟質発泡ウレタン	バックアップ材	遊間幅、 遊間長
2	1液湿気硬化型ウレタン樹脂	KF ウレタンプライマー50N	0.1~0.2kg
3	ブチルゴムテープ	KF シールテクトテープ 300K	遊間幅、 遊間長
4	1成分湿気硬化型ウレタン樹脂 ※1	KF シールテクトベース 2000	39 kg ※2

※1：1液タイプであるが硬化促進剤を使用する。

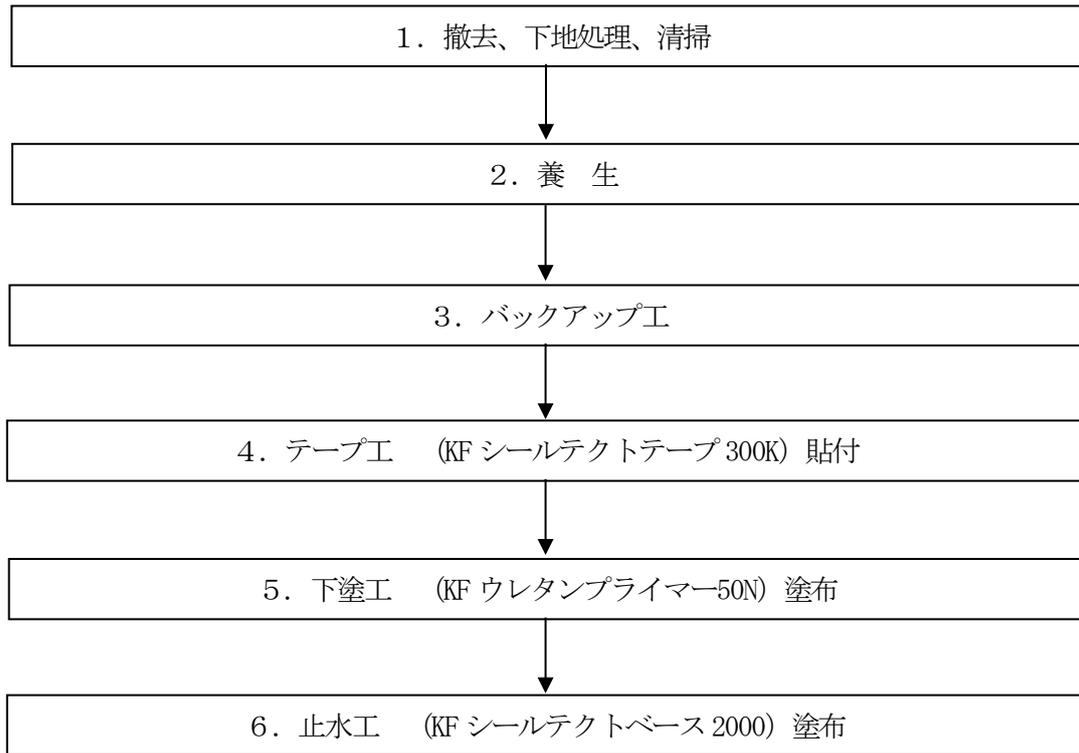
※2：遊間幅、遊間深さにより調整する。

2 YKB-J 工法 仕様断面図



施工断面図

3 施工フロー図



4 施工条件

(1) 施工条件

以下の条件をすべて満たした状態で施工を行う。

- ・降雨、降雪、強風がないこと
- ・気温5℃以上、湿度85%以下であること
- ・施工面が十分乾燥し、結露・凍結がないこと
- ・施工面は十分に清掃され付着阻害要因となる異物等がないこと

5 要求下地

- (1) 施工面の補修歴を確認し、施工に支障のない下地表面であること。
- (2) 施工面は十分に乾燥していることを確認する。
- (3) 施工に支障のない程度に止水処理がされていること。

6 施工手順

作業名	撤去・下地処理・清掃・養生	作業番号	1、2
-----	---------------	------	-----

使用材料と使用量	なし	使用工具	①サンダー ②電動ピック ③バール ④ブロアー ⑤集塵機 ⑥墨出し ⑦養生テープ ⑧皮スキ
----------	----	------	--

作業内容	注意事項
<p>【撤去】</p> <p>① ジョイントの既設ゴムを撤去する。</p> <p>【下地処理】</p> <p>① 下地と止水材の接着を阻害するようなレイタンス、油脂、浮き錆、よごれ等は除去すること。また、著しい突起物、豆板などの欠陥部は補修すること。</p> <p>② 金属部を研磨し錆を落とす。</p> <p>【清掃】</p> <p>① 下地表面にあるゴミやホコリ等を乾湿両用集塵機で清掃する。</p> <p>【養生】</p> <p>① 施工範囲を確定しマスカーや養生テープを貼りつける。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="text-align: center;">  <p>既存止水材撤去</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>鋼材部研磨</p> </div> </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・下地処理を怠ると施工不良の原因になるため、適切な下地処理がなされていることを確認すること。 ・電動工具を使用した2種ケレン相当とする。 ・使用材料が付着すると容易に剥がすこと出来ないため、付着してはいけない機材等も養生を行う。

6 施工手順

作業名	バックアップ工、テープ工	作業番号	3、4
-----	--------------	------	-----

使用材料と使用量	軟質発泡ウレタン	使用工具	-
	KF シールテクトテープ 300K		

作業内容	注意事項
<p>【バックアップ工】</p> <p>① 遊間部にバックアップ材（軟質発泡ウレタン）を敷き詰める バックアップ材の天端とジョイントの天端の高低差が60mmとなるようにする。 ※遊間幅、遊間深さにより調整する。</p> <p>【テープ工】</p> <p>① KF シールテクトテープ 300K をバックアップ材の上に隙間なく敷き詰める。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;">  <p>バックアップ材設置</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>テープ工</p> </div> </div>	<p>ジョイントの曲線部に隙間ができやすいのでバックアップ材、KF シールテクトテープ 300K を押し込むように敷き詰める。</p>

6 施工手順

作業名	下塗り工	作業番号	5
-----	------	------	---

使用材料と使用量	KF ウレタンプライマー50N (0.1~0.2kg/m ²)	使用工具	①刷毛 ②中毛ローラー
----------	--	------	----------------

作業内容		注意事項																				
<p>①刷毛、中毛ローラー等を用いて、0.1~0.2kg/m²均一に塗布する。</p> <p>《 塗装間隔及び使用可能時間の目安について 》</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">温度</th> <th>5~15℃ 冬期</th> <th>10~25℃ 春秋期</th> <th>20~35℃ 夏期</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">項目</td> <td>最短</td> <td>30分~</td> <td>30分~</td> <td>30分~</td> </tr> <tr> <td>最長</td> <td>~3時間</td> <td>~3時間</td> <td>~3時間</td> </tr> <tr> <td colspan="2">使用可能時間^{※2}</td> <td>6時間</td> <td>4時間</td> <td>2時間</td> </tr> </tbody> </table> <p>※1 標準塗装間隔 ：下地への塗布後、上塗工の施工が可能になるまでの時間</p> <p>※2 使用可能時間 ：下地へ塗布する事の出来る時間</p>		温度		5~15℃ 冬期	10~25℃ 春秋期	20~35℃ 夏期	項目	最短	30分~	30分~	30分~	最長	~3時間	~3時間	~3時間	使用可能時間 ^{※2}		6時間	4時間	2時間	<ul style="list-style-type: none"> ・荷姿 : 1.0ℓ/10角缶 ・使用する塗布用具は施工部位、下地の状況に応じて適宜使い分ける。 ・塗布後、指触乾燥状態になったら、次工程の施工が可能。 ・使用可能時間が過ぎた材料の使用は厳禁。 ・作業時の天候には十分に気を付ける。 	
温度		5~15℃ 冬期	10~25℃ 春秋期	20~35℃ 夏期																		
項目	最短	30分~	30分~	30分~																		
	最長	~3時間	~3時間	~3時間																		
使用可能時間 ^{※2}		6時間	4時間	2時間																		
 <p>下塗り工</p>																						

6 施工手順

作業名	止水工	作業番号	6
-----	-----	------	---

使用材料と使用量	KF シールテクトベース 2000 (39 kg/m ²)	使用工具	①攪拌機 ②ヘラ ③刷毛
----------	--	------	-----------------

作業内容	注意事項												
<p>【止水工】</p> <p>① KF ウレタンプライマー50N が指触乾燥していることを確認する。</p> <p>② KF シールテクトベース 2000 に硬化促進剤を添加し攪拌機で1分間以上攪拌する。</p> <p>③ 攪拌したKF シールテクトベース 2000 をジョイント遊間部に流しこむ。</p> <p>立ち上がり部はヘラや刷毛で塗り付ける。</p> <p>ジョイント天端から 30 mmほど下げた位置まで充填する。</p> <p>※遊間の幅や深さにより調節する。</p> <p>《 塗装間隔及び使用可能時間の目安について 》</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>温度</th> <th>5～15℃</th> <th>10～25℃</th> <th>20～35℃</th> </tr> <tr> <th>項目</th> <th>冬期</th> <th>春秋期</th> <th>夏期</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>使用可能時間^{※2}</td> <td>4時間</td> <td>2時間</td> <td>1時間</td> </tr> </tbody> </table>	温度	5～15℃	10～25℃	20～35℃	項目	冬期	春秋期	夏期	使用可能時間 ^{※2}	4時間	2時間	1時間	<p>・荷姿： 主剤：10ℓ/石油缶 硬化促進剤：0.3kg/0.5ℓ角缶</p> <p>容器入隅部は混ざり難いので入念に攪拌する。</p> <p>使用可能時間が過ぎた材料の使用は厳禁</p> <p>作業時の天候には十分気を付ける</p> <p>勾配がある場合は混合後しばらく放置し粘性が上がってから流しこむ。</p> <p>止水材は漏洩の有無確認のため2層に分けて塗布する。</p> <p>1層目塗布後硬化確認後(約30分)に2層目を塗布し所定の膜厚に施工する。</p>
温度	5～15℃	10～25℃	20～35℃										
項目	冬期	春秋期	夏期										
使用可能時間 ^{※2}	4時間	2時間	1時間										
 <p style="text-align: center;">止水工</p>													